



「言葉で語り継ごう」子を亡くした親 震災の教訓...

後で見る

共有



ニュース

「言葉で語り継ごう」子を亡くした親 震災の教訓考える 名取市でトークセッション〈宮城〉

2022-10-31 12:24:02

東日本大震災で子供を亡くし語り部活動を続ける2人が、宮城県名取市関上で震災からの教訓について話し合いました。

10月29日、名取市の関上公民館で震災の教訓を伝えようとトークセッションが開かれました。登壇したのは石巻市の大川小学校で当時6年生の次女・みずほさんを亡くした佐藤敏郎さんと、名取市関上で当時、中学1年生だった長男の公太さんを亡くした丹野祐子さんの2人です。

語り部として震災の記憶を語り続ける2人。東日本大震災から11年7カ月が経過。語り継ぐことの意義などを話しました。

丹野祐子さん

「ここ関上は何もなくなってしまった。残すものもないと早い段階で決められてしまったので、言葉を残さないと無かったことにされてしまうだろう。じゃあ言葉を残そう、言葉で語り継ごうと」

佐藤敏郎さん

「私たちもこの頃、なんで語り部をやっているのかとよく聞かれます。それは聞いてくれる人がいるからなんです。聞き手の存在があって語り部はある」

主催した団体では今後もこうした震災伝承活動を続けていきたいとしています。